

森の通信

Museum and Cultural Institutions of Miyazaki Prefecture

宮崎県総合博物館だより

第 22 号

発行日/平成 7 年 4 月 15 日

発行 / 宮崎県総合博物館 〒880 宮崎市神宮 2 丁目 4 番 4 号 TEL (0985) 24-2071

特別展 江上波夫コレクション

シルクロード西域文物展

— 楔形文字粘土板からイスラム陶器まで —



女性祈念者像
(シュメール)

円筒印章
(シュメール〜アッカド)



彩文土器
(イラン西南部)

水晶とラピスラズリ製の首飾り(イラン北部)

青銅板
(ルリスタン文化)



「シルクロード」という言葉の響きには、私たち日本人にとっても何かしら郷愁を抱かせるものがあります。言うまでもなく正倉院に納められているガラス器や綿、楽器などはシルクロードを経由してもたらされたものとしてよく知られています。しかし、それらがどこで作られどんな人々を経由して日本まで伝播したのか・・・よくわからないことだらけです。

今回の展覧会では、シルクロードを東西文明の交渉路、かけ橋としてとらえ、シルクロード関連文物のなかでも、いまだに宮崎では紹介する機会がなかった古代オリエント地域の出土資料を中心に展示します。たとえば、最古の都市国家を形成したシュメール人の残した円筒印章、楔形文字粘土板、ラピスラズリ製首飾りや遊牧騎馬民族の生んだ青銅造形の傑作と讃えられるルリスタンブロン

ズ、なかでも青銅製馬具や杯また、華やかな色彩のイスラム陶器の数々、西洋と東洋が混交する不思議な魅力を放つガンダーラ仏など多彩な資料約200余点で構成します。東西9000kmにおよぶシルクロードを往来したこれらの文物は、数千年間におよぶ歴史を語るものとして、同時にユーラシアの諸民族の個性が生んだ芸術作品として限り無い魅力に富んでいます。(近藤)

会 期 平成 7 年 5 月 20 日(土) - 6 月 18 日(日)

— 午前 9 時 - 午後 5 時(入館は午後 4 時 30 分まで) —

休 館 日 毎週月曜日(5 月 22 日、29 日 / 6 月 5 日、12 日)

入 館 料 大 人 700 (550) 円

高大生 500 (350) 円

小中生 300 (200) 円

※ () 内は、
団体(20 名以上)
の料金

博物館総合整備事業

—— 博物館が変わります ——

1 経 緯

昭和46年に開館した本館は、その後23年を経過し、展示等設備の老朽化や旧式化が見られるようになりました。一方、本県では置県100年記念事業として県立図書館、県立芸術劇場、県立美術館を備えた総合文化公園建設計画がすすめられ、すでに県立図書館と県立芸術劇場は開館しています。建設中であった県立美術館も今秋には、開館する運びとなり、それに伴って本館の美術資料は県立美術館に移管されることとなります。

これら、本館を取り巻く状況の変化のほか科学技術の進展、社会の成熟化、高齢化など社会情勢の変化も著しく、博物館に対して多様な役割が求められるようになりました。

本館では、このような状況に対処するため、平成元年「今後の博物館の在り方について」博物館協議会に諮問しました。平成3年に答申を得た後、平成5年「宮崎県総合博物館再編整備事業」に着手し、平成6年度には「再編整備基本構想及び基本計画」をまとめ「展示基本設計」の作成を終了しました。

2 整備事業の概要

- (1) 新しい展示機器や手法を導入するなど、魅力ある展示が展開できるよう展示室を抜本的に改造する。
- (2) 広く県民のニーズに応えるため、多様な講座を開講するなど普及活動を充実させるため必要な施設を整備する。
- (3) 資料の収集・保存・研究等の活動が円滑にすすめられるよう収蔵庫等必要な施設を整備する。
- (4) 高齢者や身障者に配慮するなど、広く県民に利用される開かれた博物館になるよう整備する。

3 進行計画

年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	開館
展 示	基本設計	実施設計	資 料	製 作	
建 築		実施設計	施 工	周辺整備	

話題のコーナー展

農 耕 用 具（西都原資料館）

農耕用具は、稲作用具と畑作用具に大別できます。それぞれ土地を耕したり、種をまいたり、苗を植えたり、管理したり、収穫したりする用具があります。

用 具 例

- 耕 す——カブキリ、スキ、クワ、マンガ、ゴロマンガ、クレシシキなど
- ま く・植 え る——タウエツナ、ナエブネ、タネマキキ、ムタシロカキなど
- 管 理 す る——アブラサシ、ズラシ、コカシ、スイシャ、アゼヌリ、タゲタ、カカシなど
- 収 穫 す る——カマ、センバ、トウミ、ウス、トオシ、メグリボー、バラなど

西都原周辺では、一ツ瀬川や三納川に沿った平野部に水田が広がっています。特に、江戸時代につくられた杉安井堰と用水路は、それまでの荒れ地を水田に変え、米の生産を増やしました。

西都原台地では、昔から畑作が行われていました。春は菜種や麦、夏は葉たばこや大豆、秋はさつまいもやそばや大根などの収穫が盛んでした。また、養蚕のための桑畑や、茶畑も多く見られました。

本展示では、耕運機やコンバインのない時代に活躍したこれらの農耕用具を、それが果たした役割を示しながら紹介します。その一つ一つから、当時の人々の願いや

工夫が感じ取れます。

(清水)

〔展示期間：平成7年2月15日～10月8日〕



【耕 す】



【ま く・植 え る】



【管 理 す る】



【収 穫 す る】

イトトリキ

蚕を飼って繭をつくらせ、その繭から糸をとるという仕事は、古い時代から行われていたといわれています。

糸とりは、火鉢にかけた鍋で繭をゆっくりと煮ます。湯で柔らかくなった繭の表面から糸口をひき出し、糸枠に巻き取ります。多数の繭から同時に繭糸をひき出し、鍋の上の部分に糸よせしたものを一つにまとめるため、糸とり機の綾振りが左右に動きます。

本資料は、収穫した繭から生糸をとる手回し式の糸とり機です。取っ手を回すと木製の歯車がなめらかに回転し、それにつれてとりつけられた糸枠が回転して、糸を巻き取る仕組みです。付属品としての糸枠が4個残っており、そのうちの2個には当時の糸が巻き取ったままの状態です。

聞き取り調査によって、大正時代から昭和時代初期にかけて宮崎市周辺部で使用されたことがわかりました。本体の高さは、約35cmで大正五年の墨書、糸枠の1個には、大正十年の墨書がそれぞれみられます。使用地周辺は、現在住宅地ですが、かつて桑畑がひろがり養蚕が盛んに行われていたことがうかがえます。

このように、墨書等の記録が残っているなど保存状態が良く研究や展示に活用できること、また、使用地周辺の当時の土地利用の状況や生産の様子の一端をうかがうことができる点で貴重な資料です。

(地材)



泳ぎの名手 ゲンゴロウ

溜池や小川の身近な昆虫類は、トンボ・アメンボ・ミズスマシ・タイコウチなどが挙げられますが、ゲンゴロウの仲間は、特に親しみ深い種類です。一口にゲンゴロウと言っても、日本に120種ほどがいて、体長1mmの微小種から4cm余りにもなる大型種までさまざまです。形が卵形や楕円形で体の線が流線形をしており、後脚には、毛が密生したあたかもオール状になり、甲虫の仲間では、最も水中生活に適した「泳ぎの名手」です。

普通、私たちがよく目にするのは、体長1cm前後のコシマゲンゴロウやヒメゲンゴロウです。川のだよみや、溜まり、池など、時には学校のプールなどで活発に泳いでいる姿の见られることがあります。しかしながら、近年の水質汚濁のため、これらの種類を含め、大多数のゲンゴロウ類がすみかを追われ、ほそぼそした生活を送っています。日本最大のゲンゴロウ（ナミゲンゴロウ）は、以前は、宮崎県内でも、少ないながら生息が確認されていましたが、現状不明となつています。スジゲンゴロウは、全国的にも絶滅の危機に瀕している種類で、1930年代以前には宮崎県にも生息しており標本が残っていますが、これも現在生息の証拠は得られていません。

宮崎県内では、これまで調査不足もあって、ゲンゴロウの仲間は12種しか記録がありませんでしたが、ここ1～2年の調査で、36種も生息していることがわかりました。その中には、九州新記録のキボシコツブゲンゴロウや希種のマルコガタノゲンゴロウ、チンメルマンセスジゲンゴロウなどの種類が採集され、明るい話題となりました。極最近では、水質保全や汚染を出さない運動が市民ぐるみで徐々に定着しつつあります。ゲンゴロウのすめるような水域が拡大していけば、私たちの健全な生活環境が豊かになることにもつながります。

(岩崎)



スジゲンゴロウ

1933年採集 宮崎市江平池産
(宮崎大学農学部寄贈標本)

埋文講座「遺跡をたずねて」

埋蔵文化財センターでは毎月第4土曜日の午後2時30分から4時まで2階の研修室で県内の発掘調査の最新の成果と現在までの研究の成果についてビデオ・スライドや土器などを使って紹介する埋文講座「遺跡をたずねて」を行っています。

昨年度は「考古学から見た宮崎」というテーマで県内の旧石器時代（今から数万年前）から平安時代（今から7百年前）までの遺跡の調査成果に国内の研究結果を加えながら、宮崎における古代の人々の生活について考えてみました。1回平均31人の受講がありました。

今年度は「考古学から見た古代人」というテーマで県内の旧石器時代から平安時代までの遺跡の調査成果に国内の研究結果を加えながら、古代の人々の生活や心について考えてみます。4月22日は「考古学から見た古代のムラ」というテーマで、旧石器時代から平安時代の間におけるムラの移り変わりについて考えてみました。

5月からのテーマは次のとおりです。

- 5月27日(土)「考古学から見た古代の器」
- 6月24日(土)「宮崎の遺跡を知る～平成6年度の発掘調査から～」
- 7月22日(土)「北方バイパス遺跡群(北方町)の調査」
- 8月26日(土)「考古学から見た古代の道具」
- 9月23日(土)「考古学から見た古代の墓」
- 10月28日(土)「考古学から見た古代の人」
- 11月25日(土)「学頭遺跡群(高岡町)の調査」
- 12月23日(土)「考古学から見た古代のマツリ」
- 1月27日(土)「考古学から見た古代の水田と畑」
- 2月24日(土)「上蘭遺跡(新富町)の調査」

3月23日(土)「考古学から見た古代の食」

7月22日・11月25日・2月24日の場合はそれぞれコーナー展を見ながら、その遺跡について考えてみます。なお6月24日の「宮崎の遺跡を知る」だけは県民文化ホールで午後1時から4時まで行いますので注意して下さい。

受講料は無料で、事前の申し込みも必要ありませんので、気軽に受講してください。問い合わせ等については埋蔵文化財センター（☎0985-26-2634）をお願いします。

なお11月6日(日)には午前10時から午後4時まで文化財保護強調週間(11月1日～7日)の行事として施設公開を行います。出土品の整理のようすや鉄器の保存方法など埋蔵文化財センターでの仕事を紹介すると共に、土器の復元作業なども体験できます。入場は無料で、申し込みも不要です。

また、今年度のコーナー展は次のとおりで、無料です。

北方バイパス遺跡群(北方町)の調査(7.5～11.5)

北方バイパス建設に伴い、平成元～5年に調査された北方バイパス遺跡群の打扇・早日渡・蔵田・矢野原遺跡から出土した旧石器時代～弥生時代の土器・石器などを中心に展示解説します。

学頭遺跡群(高岡町)の調査(11.8～平8.2.5)

県道拡張工事に伴い、平成元年～5年に調査された学頭遺跡群の八見・学頭遺跡から出土した縄文時代～平安時代の土器・石器などを中心に展示解説します。

上蘭遺跡(新富町)の調査(2.8～)

県営農村基盤総合パイロット事業に伴い、新富町教育委員会が昭和62年に調査した上蘭遺跡から出土した古墳時代の土器・石器などを中心に展示解説します。(長津)

5月から7月の催しもの

	5月	6月	7月
※特別展	5/20 シルクロード西域文物展 6/18		
※常設展			
自然史	宮崎の自然(青島・都井岬・霧島・大崩山の動物・植物・地形・地質)		
考古	宮崎の原始・古代(先土器・縄文・弥生・古墳時代の文化)		
歴史	宮崎の歴史(日向の古代・中世・近世の政治と文化)		
民俗	宮崎の生活(農家の居間・井戸とその周辺)		
美術	宮崎の美術(絵画・彫刻・工芸)		
埋蔵文化財センター	埋蔵文化財の保護と宮崎の遺跡		
西都原資料館	西都原の古墳文化 西都原周辺のくらしと文化		

※普及活動

- 博物館……博物館自然教室— 5/24 7/12「野外調査会」
- 博物館こども教室— 毎月第2・第4土曜日 4/ 8「森の名画座」
- 埋蔵文化財センター……埋文講座— 5/27「考古学から見た古代の器」 6/24「宮崎の遺跡を知る」
- 7/22「北方バイパス遺跡群の調査」